

文化と交流

第3号(2005年1月号)

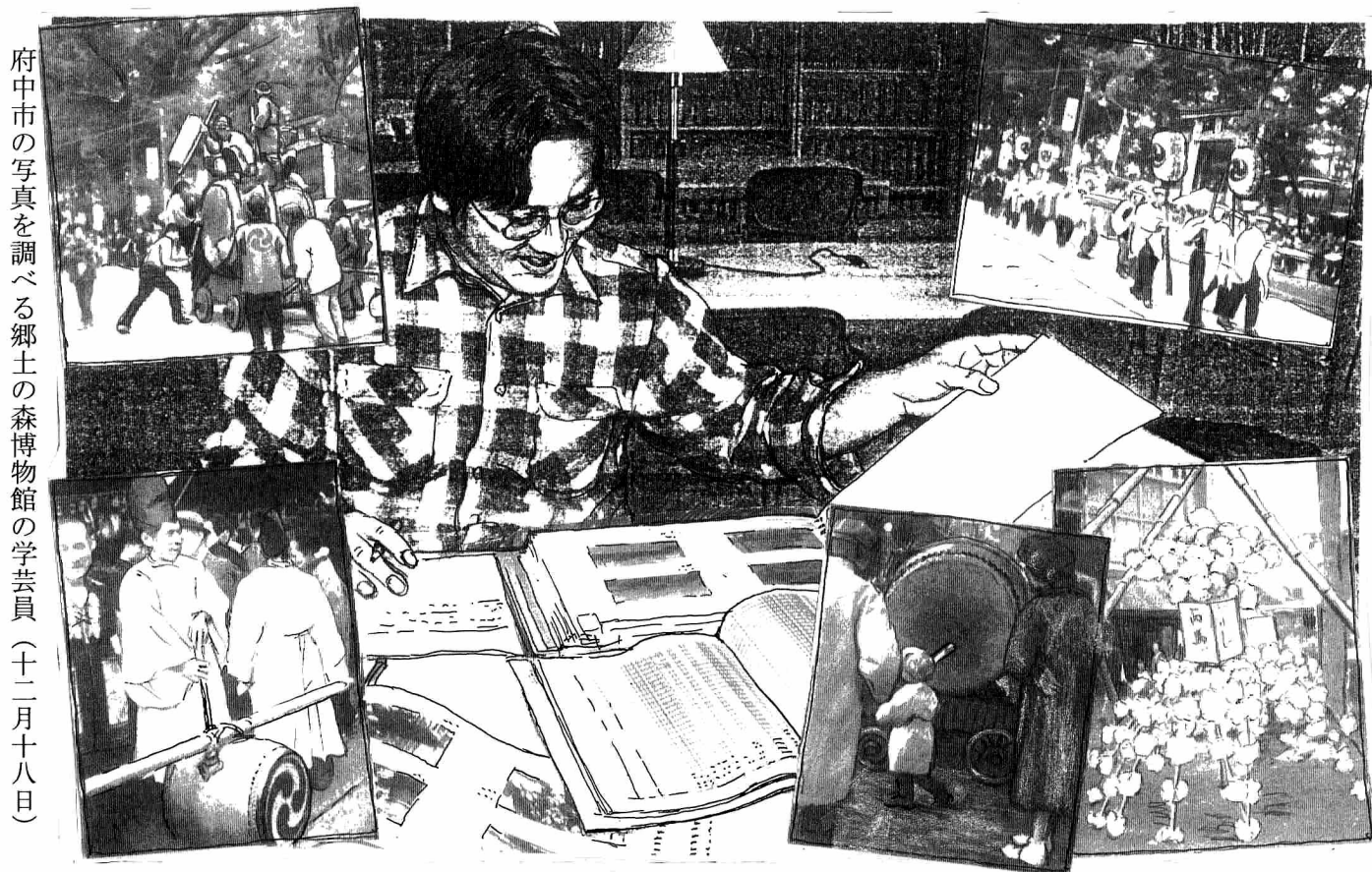
発行／周防大島文化交流センター

〒742-2512 山口県大島郡周防大島町大字平野 417-11

ホームページアドレス <http://www.towatown.jp/koryu-center/koryu.htm>

電話・ファックス 0820-78-2514

図書室専用の電話 0820-78-0629



迎春



新年あけましておめでとうございます。本年も周防大島文化交流センターをよろしく願います。

さて、当センターでは宮本常一が撮影した写真約九万枚を館内のパソコンで公開しています。昭和二〇年代から五〇年代にかけて民俗調査のかたわら撮影したもので、日本各地はもとよりアジア、アフリカの写真も多く、田畑や町並みなど、当時の様子を知らするための貴重な資料として注目を集めています。

東京都府中市にある郷土の森博物館では、昨年十月から当センターに学芸員を派遣。同市に関わる宮本撮影の写真約千枚について調査を進めています。府中市は宮本が二〇年間暮らした地。同博物館では今春、宮本の写真を使った企画展を開く予定のこのことです。

一方、ここ周防大島でも地元有志の皆さんから、宮本の写真文集『私の日本地図／周防大島』をデジタルデータ化する作業を当センターと共同で始めたというご提案がありました。

宮本が撮影した周防大島の写真は四四一六枚。内訳は東和地区が二八七七枚、大島地区が三六一枚、久賀地区が三一四枚、橘地区が二四四枚で、どの地区を撮影したのか明記していない写真も六二〇枚あります。同書のデジタルデータ化は、宮本が残した膨大な写真を活用した「大島再発見」の第一歩となることでしょう。

当センターでは今後、こうした取り組みに協力していただけのボランティアスタッフを広く募集し、併せて宮本撮影の写真と現在の島の様子とを比較研究するプロジェクトを始めたいと考えています。

『宮本常一著作集ブックガイド』作品募集

五〇巻目の刊行が迫ってきた未来社の『宮本常一著作集』。宮本はわかりやすい文章で高度成長期以前の「古き良き日本」の姿を書いています。いまでも大勢の読者を魅了し続けている宮本の著書の魅力を、より多くの方に知っていただくため、周防大島文化交流センターでは宮本常一誕生百年の平成十九年に『宮本常一著作集ブックガイド』を刊行したいと考えています。つきましては、ブックガイドに掲載する作品を募集いたしますので、ぜひ、ご応募下さい。



応募要項

1. 作品内容

- ・未来社の著作集の内容を、あなたの言葉でわかりやすくガイドしたものを、文章にまとめて投稿して下さい。
- ・著作集1巻分につき1作品とします。ただし、何作品投稿されても結構です。
- ・自作、未発表の作品に限ります。
- ・1作品の長さ（題名等を含まない本文のみの長さ）は、400字詰め原稿用紙で6枚分（2400字）程度とします。
- *著作集の題名、初出などの基本的な書誌データは、ブックガイドに別途掲載しますので、本文の中で必ずしも触れる必要はありません。
- *交流センター学芸員が書いた作品例を次頁に掲載しています。ただし、あまり作品例にとらわれることなく、個性溢れる作品をお寄せ下さい。

2. 応募資格

町内外を問わず、どなたでも結構です。

3. 応募方法

原稿用紙、ファックス、E-mailのいずれかで作品を提出して下さい。

- *作品には必ず住所、氏名、電話番号を明記したものを添付して下さい。また、E-mailの場合はテキスト形式で送信願います。

4. 第一次締切

平成17年6月30日（木）

5. 送付先・お問い合わせ先

〒742-2512 山口県大島郡周防大島町大字平野 417-11
周防大島文化交流センター
電話・ファックス 0820-78-2514
E-mail syakai@town.suo-oshima.lg.jp

6. 掲載について

お寄せいただいた作品について周防大島文化交流センターで検討した上、ブックガイドに掲載いたします。

- *著作集の同じ巻に対して複数の応募作があった場合は、その中から最も適切な作品のみを掲載する場合がありますので、ご了承願います。
- *掲載にあたっては、応募者の方とご相談の上、加筆、修正をお願いすることもありますので、ご了承願います。

7. 選考結果発表

応募者の皆様には、ブックガイドの発送をもって発表にえさせていただきます。

8. その他

ブックガイドへの掲載権は周防大島町に帰属します。

『宮本常一著作集(一) 民俗学への道』(一九六八年)

宮本常一著作集第一巻におさめられた『民俗学への道』は、一九五五年に岩崎書店から刊行された同名の単行本の再録である。「日本民俗学の目的と方法」「日本民俗学の歴史」「日本民俗学関係一覧」「あるいて来た道」の四つの章からなる民俗学の入門書であり、宮本自らあるいて来た道をつづった自伝的内容ともなっている。著作品集収録にあたって、原典から大きく内容が書き換えられており、一九六八年時点における見解と考えてよい。

民俗学とは何か? それは、「かつて文字を持たなかった民衆社会の中でおこなわれた、文化伝承の方法であった言葉と行為のくりかえし、慣習的生活の記録化と、これをもとにした文化の原型への遡源と、文化の類型、機能を研究しようとするものである」と、「日本民俗学の目的と方法」の冒頭で言う。

以下、民俗学の創始者であり宮本の師でもあった柳田国男への敬意に満ちた叙述とともに民俗学の研究方法が述べられてゆくが、本書がユニークなのは、そうした姿勢の中からも従来の民俗学に対する宮本独自の批判的な記述が目立つ点であろう。例えば、柳田国男は残存する民俗伝承の比較によって日本文化の祖形

をさぐろうとしたが、これに対し宮本は、「私にとつていつも疑問に思

つて来たことは古代社会は統一せられた一いろの文化の中にあつたのだろうかということである。遡源せられていったものとは違った文化、あるいは別の系統の文化も存在したのではないか」と述べ、稲作文化中心の研究によつて従来の民俗学が見落としてきた、畑作・狩猟・漁撈・支配者文化など別系統の文化複合の可能性を指摘する(二五―二六頁)。また、民俗学は口頭伝承や行為だけでなく、文献・景観・民具などを対象とすべきだとも主張している(四九頁)。民俗学の概説書の体裁をとりながら、のちに「宮本学」と呼びならわされるような、非常に幅広い対象への目配りが、そここに示されている。

ややもすると民俗学とは消えゆく過去の事象を調べるだけの学問と受け取られるくらいがあるが、宮本はそうした考え方に対して、「それは往々にして物知りをつくるだけに終ることが多い」(七九―八〇頁)と手厳しい。「民俗学は単に無文字社会の過去を知るだけでなく、その伝統が現在へどうつながり、したがって将来に向つてどう作用するかをも見きわめなければならぬと思う」。

(略) なお生きて流動しているものとしてとらえたのである。単なる遺風遺物の調査ではない」(八〇頁)と、たいへん刺激的な表現で、民俗学の世界へと読者を誘っている。

さて後半の「あるいて来た道」は、宮本が自らの半生をつづった自伝的な内容である。主に戦前・戦中・戦後から昭和三〇年代までの調査の歩みが語られる。

明治四〇年、周防大島に生まれた宮本は、一六歳のとき島を出て、大阪ではじめは郵便局員、のちに小学校教員として過ごす。このころ柳田国男が主宰する『旅と伝説』を買い求め、全国各地の昔話を募集しているのを知る。宮本は故郷周防大島の昔話をノート一冊にまとめて送り、これがきっかけとなつて柳田国男との文通が始まり、民俗学の世界へと引き込まれてゆく。

小学校教員をするかたわら大阪民俗談話会を結成。この会合の席に突然東京から渋沢敬三がやってきて、渋沢との知遇を得る。渋沢が主宰するアチック・ミュウゼウム(のちの日本常民文化研究所)の所員として招かれ、昭和一四年秋、妻子を大阪へ残し単身東京での研究生生活を始めるのである。

以後、宮本は日本全国をひたすら歩く旅に出る。驚くべきは、ほぼ毎年、一年間に二〇〇日前後の日数を旅して歩いていることである。「まったくの乞食旅行だといつていい」。

「ときには、富山の薬屋にまちがえられた」。「痛む腹をおさえつつみぞれ降る道を歩いたこともある」と、この時の旅の様子を振り返っている(二―三頁)。その旅のひとつひとつが詳しく述べられてゆく。

旅の成果は原稿一万二〇〇〇枚、カード同数、採集ノート一〇〇冊、写真一〇〇〇枚にまとめられていたが、そのいっさいを空襲で失う。この時いったんは学問の道を断念しかけたともいうが、戦後新たに民俗調査の旅へと再起するまでの道すじが語られる。

読んでいて気づくのは、宮本が旅で出会った人物の名前が具体的に一人ひとり記されていることで、「あるいて来た道」だけで実に七五人の固有名詞が登場する。宮本の旅とは人と出会うことの楽しさを知るための旅であり、いかに宮本が人との出会いを大切にしていたかがわかるであらう。

宮本は晩年『民俗学の旅』(文藝春秋、一九七八年)というもうひとつ別の自伝を書いているが、戦前から敗戦前後までの記述は「あるいて来た道」の方が詳しく、ここでしか読めない内容も多い。前者が一九九三年講談社学術文庫から復刊され廉価で入手しやすくなったのに対して、後者は著作集第一巻として再刊された本書で読む以外に方法がない。宮本常一の魅力が伝わってくる一冊である。



(新1493)

昨年十一月に開かれた体験学習会で講師を務められた山口植物学会会長の南敦さん（光市）が、珍しい植物を交流センターに寄贈して下さいました。カンザブローノキ、バクチノキ、ヤブサンザシの三種類で、中でもカンザブローノキは大変貴重な

植物です。また、バクチノキは内入の荒神様の木が有名ですが、この木は樹皮が大きく剥けて幹が赤くなるので、バクチ（賭博）で身ぐるみ剥がれることにたとえて名付けられたのにと。面白い由来ですね。

貴重な植物を寄贈

山口植物学会会長の南さん



耳より情報

「につぼんの記憶／旅する巨人宮本常一の時空」と題した連載が、読売新聞で始まりました。交流センターが保管している宮本常一撮影の写真を元に山口、九州の戦後をたどる企画で、一月七日から毎週金曜日の朝刊に連載されています。



体験学習 「久賀の石積み棚田をあるく」 参加者募集

周防大島町の久賀地区は、かつて優れた石工を数多く輩出したことで知られています。久賀の石工たちは、西瀬戸内海や北九州などの広い地域に見事な石垣や波止を築き、琵琶湖疏水の難工事を成功に導くなど、各地で活躍しました。

このたびの体験学習は、瀬戸内島嶼部で最も発達した石積み棚田や全国最大規模のスイドウ（灌漑施設）、久賀発展の契機となった新波止など、地元に残された石造物について学習していただくことにより、誇りある郷土の歴史を次代へ継承することを目的としています。

1. 学習の内容

能庄スイドウ、庄地のスイドウ、新波止の見学。
石工道具の見学。

*観察コース：八幡生涯学習のむら⇒能庄スイドウ⇒庄地のスイドウ⇒新波止⇒再び八幡生涯学習のむら（バス・徒歩などで移動）

*徒歩で急坂を歩く箇所もあります。

2. 実施日時・集合場所

平成 17 年 1 月 29 日（土曜日）

午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分

*八幡生涯学習のむら（周防大島町久賀）に午後 1 時 20 分までに集合

3. 参加資格

町内外を問わず、どなたでも結構です。

*参加者が小学生の場合は保護者の同伴をお願いします。

4. 参加料

無料

5. 募集人員

30 名まで（先着順）

6. 講師

印南 敏秀（いんなみ・としひで）先生

（愛知大学教授／民俗学・民具学）

7. 服装

帽子、動きやすく汚れても良い服装（特に靴）、

雨天の場合は合羽、長靴等

8. お申し込み先、お申し込み期限

・お申し込み先

周防大島文化交流センター

TEL 0820-78-2514

・お申し込み期限

平成 17 年 1 月 27 日（木曜日）午後 6 時まで

9. その他

雨天決行

*風雨の激しい場合はコースを変更する場合があります。

10. 主催

周防大島文化交流センター

八幡生涯学習のむら

なお、翌 30 日（日）午後 2 時に東和総合センターで開催される住民自主講座「周防大島郷土大学」でも、印南先生が講演をされます（臨時聴講料は 1,000 円）。

盛況！クリスマス会

松田素子さんも飛び入り参加



毎年恒例のクリスマス会が十二月十八日、交流センター図書室で開かれ、約五〇人の親子が参加しました。日頃、当センターを拠点に活動している「おはなしの会ポンポコ」「ボランティアとうわの会」「なぎさクラブ」の皆さんのご協力で、指人形劇や紙芝居、ＯＨＰなどが披露され、充実した内容になりました。

また、この日偶然図書室を訪れていた児童作家の松田素子さん（美和町）も飛び入りで会に参加。二冊も絵本を読んで下さいました。

参加した親子は、松ぼっくりを樅の木に見立て、ビーズやリボンで飾り付けるミニクリスマスツリーづくりに挑戦。最後はサンタさんが登場して子どもたちにお菓子をプレゼントしました。



「掘るまいか」上映会の展示物を図書室で公開

12月13日、新潟県中越地震の被災者支援のため、同県山古志村を舞台にした映画「掘るまいか」のチャリティ上映会が開かれたことは先月号でお伝えしたとおりですが、その際展示したパネルの一部を交流センター図書室に移設、2月末日まで展示することになりました。

なお、上映会には約70人の方が訪れ、145,565円の募金が集まりました。主催した上映委員会の皆さんは「多くの方の支援に感謝しています」と話していました。



本の楽しさ伝えます 小中学校と保育園で読書教室

東和地区内の小中学校、保育園を訪れ、絵本の読み聞かせなどをする「読書教室」が各地で好評です。今年度はすでに十二回開催しました。

上のイラストは森野保育園での読書教室の様子を描いたもの。園児たちは山川正作さん（平野）の楽しいお話に大喜びで、翌日、保育園の先生に付き添われ、交流センター図書室に遊びに来てくれました。

山川さんのご協力のお陰で、本好きの子どもたちが着実に増えてきており、図書室のスタッフ一同感謝しています。

なお、読書教室に参加した保育園児たちが描いた読書感想画を図書室に展示しています。訪れた際には、ぜひご覧下さい。



新着図書案内

交流センター図書室



一般書

図解わかる確定申告 2005 年 3 月申告版 …芥川 靖彦
スキーマップル 2005 関西・中部／北陸・中国…昭文社
三国志 1, 2, 3 …宮城谷 昌光
江戸の風花 (子連れ侍平十郎) …鳥羽 亮
誰にでも秘密がある …入間 真
逃亡者 - ノベライズ版 - …萩原 はるな
花とアリス …岩井 俊二
しゃぼん玉 …乃南 アサ
出口のない楽園 …岩井 志麻子
知りたがりやの猫 …林 真理子
地球のはぐれ方 - 東京するめクラブ - …村上 春樹
ソラリス …スタニスワフ・レム
死の壁 上・下 (大活字文庫) …養老 孟司
空気の壁 - 空気を読める人読めない人 - …鮫肌 文殊
「よい子」の悲劇 …富田 富士也
あきらめない - 脳梗塞からの挑戦 - …西城 秀樹
生き方 - 人間として一番大切なこと - …稲盛 和夫
ベビーサイン - グーとパーだけで赤ちゃんとは会話 - …
近藤 禎子
自分でできる庭の素敵リフォーム …佐藤 勇武
ごちそうスープと煮込み …主婦の友社
5分10分15分でよい井 …小林 まさみ
からだ、まるごと若返り術! …日本放送出版協会
世界の宗教 改訂新版 - 総解説 - …高尾 利数
中世再考 …網野 善彦

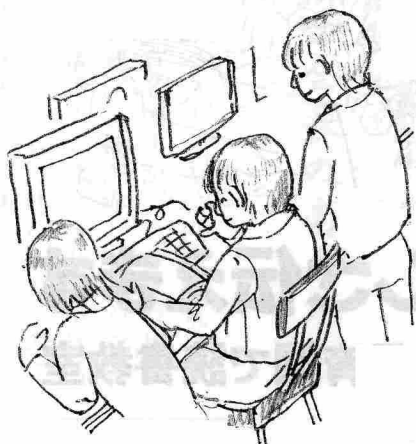
村の若者たち 復刻版 …宮本 常一
らくらく読める源氏物語 …山田 真理
一冊で読む日本の名作童話 …小川 義男

きく資料・みる資料

伝説から神話へ 山口百恵 …CD
井上陽水 ゴールデン・ベスト …CD
井上陽水 ゴールデン・バッド …CD
(以上の CD は、寄贈していただいたものです)

児童書

バレーボール - オリンピックのスーパープレーでうまくなる! - …寺廻 太
アンパンマンシリーズ …*大好評につき5冊入荷
ぼくは、かめ吉 …藤坂 宏子
おじいちゃんこっちむいて …熊田 のぶ子
魔女の子どもたち …ラッセル・エイト
きみはほんとうにステキだね …宮西 達也
となりのトトロ …徳間書店
バンロッホのチューリップ …井口 真吾
おべんともって …片山 健
ないた …長 新太
おへんじください。 …小田桐 昭
ねずみちゃんとりすちゃん …どい かや
うんちだよ …まつおか たつひで
へそのお …石井 聖岳



パソコンコーナー設置

子どもたち大喜び

十二月三日、交流センター図書室にパソコンコーナーを設けました。
パソコンは全部で五台。インターネットも利用できます。パソコンを使いたいという来館者が多いことから、町役場のものを移動しました。
最近では、子どもたちがパソコンを使う光景も珍しくなくなり賑わっています。

交流センター図書室 読書と紙しばいの会 飛び入り参加大歓迎

1月29日(土) 午後2時～
2月12日(土) 午後2時～

1月29日はビオラなどの花を花壇に植えます。

